

子どものライターによる事故

事故の概要

【事例①】住宅から出火し、子ども2人が死亡して、1人がのどにやけどを負った。

【事例②】駐車場で、駐車中の乗用車の助手席付近から出火し、助手席とダッシュボードなど車の一部を焼いた。



事故の原因



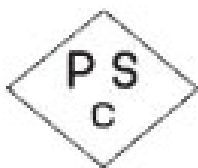
【事例①】子ども部屋からの出火で、ライターの火遊びが原因とされます。

【事例②】親が車を離れた間、助手席に座っていた子どものライターの火遊びが原因とされます。



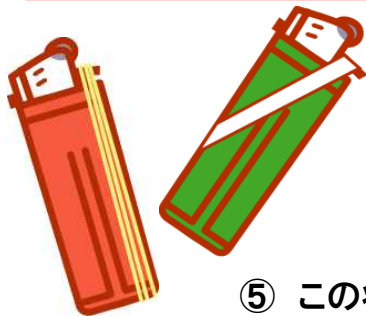
事故防止のために

- ◆子どもにライターを触らせないでください。
- ◆子どもの手の届くところにライターを置かないでください。
- ◆利用しないライターは廃棄しましょう。



使い捨てライターや多目的ライターには、**PSCマーク**が表示されているか、ご確認ください。

PSCマークの技術基準では、子どもが簡単に操作できない幼児対策(**チャイルドレジスタンス機能**)などの安全性を規定しています。(※平成23年9月27日以降、PSCマークのないライター等は販売禁止)



【ガスの抜き方の例】

- ① 周囲に火気のないことを確認する。
- ② 操作レバーを押し下げる。着火した場合はすぐに吹き消す。
- ③ 輪ゴムや粘着力の強いテープで、押し下げたままのレバーを固定する。
- ④ 「シュー」という音が聞こえれば、ガスが噴出している(聞こえない場合は炎調整レバーをプラス方向にいっぱい動かす)。
- ⑤ この状態のまま、付近に火の気のない、風通しのよい屋外に半日から1日置く。
- ⑥ 念のために着火操作をして、火が付かなければ、ガス抜きは完了です。

(参考:(社)日本喫煙具協会HP <http://www.jsaca.or.jp/info/throw.html>)

